発掘された鈴鹿 1991

発掘調査概報・概要集

2003

鈴鹿市考古博物館

例　言

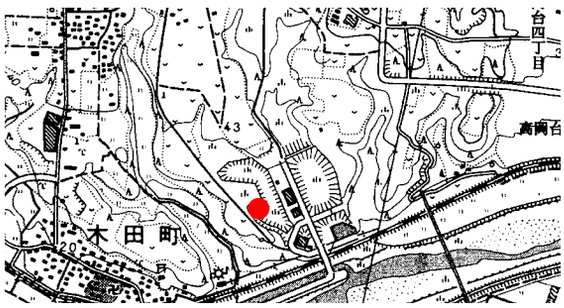
1. 本書は，鈴鹿市教育委員会が平成 3(1991) 年に実施した発掘調査の成果を紹介するものです。
2. 調査原因およびその主体，調査期間，調査面積，調査主体および担当者はそれぞれの文頭に記載しました。
3. 沖ノ坂遺跡・南畑遺跡・寺山遺跡・西ノ城戸遺跡・塚腰遺跡については発掘調査概要報告を兼ねています。
4. その他の遺跡の詳細については参考文献をご参照ください。
5. 調査成果についての見解・評価はあくまで現時点のもので、最終的な報告書において訂正される可能性があります。
6. 調査位置図には国土地理院発行の 1/25,000 地形図「鈴鹿」「亀山」「伊船」「白子」の一部を使用しています。
7. 本書の執筆・編集は鈴鹿市考古博物館埋蔵文化財グループ　藤原秀樹が担当しました。
8. 本書は PDF によるネットワーク上の刊行物です。モニターで見ることを前提に最適化しています。
9. ご利用に際しましては必ず最新版をダウンロードしてください。
10. 調査にかかる記録および出土遺物はすべて鈴鹿市考古博物館において保管しています。

目　次

沖ノ坂遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
南谷遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
西ノ城戸遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・8
寺山遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
寺山遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
伊勢国分寺跡 (4 次)・・・・・・・・・・・・15
塚腰遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
北ノ添遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・19
南畑遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
上箕田遺跡 (5 次)・・・・・・・・・・・・・21
報告書抄録・・・・・・・・・・・・・・・・・23

沖ノ坂遺跡　Okinosaka Site

所 在 地　鈴鹿市国分町字石亀谷
事業主体　鈴鹿市 (開発整備対策室)
調査目的　一般廃棄物最終処分場建設に伴う
　　埋蔵文化財の記録保存
調査期間　平成 3 年 1 月 7 日～ 3 月 26 日
調査面積　1,700 ㎡
調査主体　鈴鹿市遺跡調査会
調査担当　新田　剛



沖ノ坂遺跡調査位置図 (1/25,000)

はじめに

沖ノ坂遺跡は鈴鹿川の左岸の，南に向かって突き出す狭い舌状の台地で，標高はおよそ 36 m前後で，周囲の谷からの比高は 20m 強を測ります。東側には小さな谷を挟んで中尾山遺跡が，国分川の谷を挟んだ西側には南浦 (大鹿(おおか)) 廃寺・大鹿山古墳群・磐城山遺跡が立地しています。また，沖ノ坂遺跡と重複するように沖ノ坂古墳群が立地しています。かっては 19 基が確認されたとされていますが，現在では丘陵先端の山林に 1 ～ 3 号墳が残るのみです。

調査は，前年の中尾山遺跡の調査と同様，一般廃棄物処理場（鈴鹿市リサイクルセンター）の造成に伴うものです。調査区は南北に長い遺跡のうち，台地先端近くに位置し，東側の谷に向かって枝状に突き出した部分です。

調査の結果

調査区の東半分の谷に面した部分からは弥生時代中期中葉から古墳時代前期にかけての竪穴住居が見つかりました。

SB01　北西 - 南東方向が 5.5 m，北東 - 南西方向が 5.6 mのほぼ正方形の竪穴住居です。四周に壁溝を有し，主柱穴を検出しました。床面の中央やや北東よりには炉跡と見られる焼土面が残ります。磨製石斧等が出土しました。弥生時代中期後葉のものとみられます。

SB02　北西 - 南東方向が 4.5 m，北東 - 南西方向が 3.3 mの長方形の竪穴住居です。東側の 1 基を除く主柱穴が確認されましたが，壁溝は見つかりませんでした。同じく中期後葉とみられます。

SB03　同一個所で 3 棟が重複して建てられています。最も新しい SB03-A は古い 2 棟とは主軸を異にしていて，北西 - 南東方向が 4.4 m，北東 - 南西方向が 5 mの長方形の竪穴住居です。四周に壁溝を有し，主柱穴を検出しました。今回の調査で最も新しい古墳時代前期の住居です。SB03-B は東西 5.7 m，南北 4.4 mの長方形の竪穴住居で，東壁のみ壁溝を確認しました。SB03-C も同様に東西方向に長い長方形の竪穴住居です。この 2 棟は弥生時代中期後葉頃とみられます。

SB04　東西 5.3 m，南北 4.2 mの長方形の竪穴住居です。西半壁際には壁溝がみられ，主柱穴が確認できます。南壁中央寄りの床面には焼土面がみられます。胴部に穿孔された壺，壺口縁部および高坏坏部等が出土しました。弥生時代後期前葉とみられます。

SB05　同一個所で 3 棟が重複して建てられています。最も新しい SB05-A は南北 4.2 m，東西 4.3 mのほぼ正方形の竪穴住居です。南壁のみ壁溝を検出しました。主柱穴が確認できます。床面中央部に 3 箇所の焼土面がみられます。弥生時代後期初頭のものとみられます。SB05-B は西辺壁溝のみの検出です。南西隅付近の壁際に焼土面がみられます。SB05-C は，西および南壁を検出しました。西辺に壁溝がみられます。南北 4.3 mを測ります。これらは中期後葉のものとみられます。

SB06　東端に位置するため，東・南側の大部分が削られ失われています。また，北西隅を SB07 に切られ，先行します。壁溝・柱穴ともに確認できません。南北 3m 以上，東西 5m 以上の長方形とみられます。弥生後期初頭とみられます。

調査区配置図 (1:2,500)

SX08
SX07
SX05
SX06
SX02
SX03
SB12
SX09
SB10
SB13
SB01
SB08
SB02
SB11
SB09
SB03
SX01
SB04
SB07
SB06
SB05
0
20 m

沖ノ坂遺跡遺構配置図（1:300）

SB07　東西 3.7 m，南北 2.9 mの長方形の竪穴住居です。北壁に壁溝がみられますが，主柱穴は確認できません。高坏・甕等が出土しました。弥生後期初頭とみられます。

SB08　今回の調査では唯一確認された円形の竪穴住居です。SB11 に切られています。直径は 8m を測ります。周囲に壁溝を巡らせ，環状に配置した 6 または 7 本の主柱穴で上部構造を支えていたとみられます。床面中央やや西寄りに炭の詰まったピットと，2 基のピットを細い溝で連結したような構造がみられます。壺・脚付鉢・砥石等が出土しました。最も古い弥生時代中期中葉に遡るものとみられます。

SB09　北西 - 南東方向が 5.5 m，北東 - 南西方向が 4.2 mの長方形の竪穴住居です。四周に壁溝を巡らせ，主柱穴が確認できます。床面中央やや北西寄りに焼土面がみられます。弥生時代中期後葉とみられます。

SB10　東西 4.1 m，南北 3.9 mのほぼ正方形の竪穴住居です。西・南壁に壁溝，西側の 2 基の主柱穴が確認できます。床面中央西寄りに焼土面がみられます。弥生時代中期後葉とみられます。

SB11　谷側の南半はかなり削られて失われています。同一個所で 2 棟が重複していて，新しい SB11-A は東西 3 m，南北 4.1 m以上の長方形です。南側を除く周囲に壁溝が見られますが，主柱穴はよく分かりません。床面中央北寄りに焼土面がみられますが SB11-B に伴うものかもしれません。古い SB11-B は，東西 4 m，南北 4.3 m以上の長方形で同じく三方に壁溝と，4 基の主柱穴が確認できます。床面中央には焼土面も認められます。砥石等が出土しました。弥生時代中期後葉とみられます。

SB12　東西 3.7 m，南北 4.1m のほぼ正方形の竪穴住居です。壁溝・主柱穴とも認められません。高坏等が出土し，弥生時代後期前葉とみられます。

SB13　南半は削られて失われています。同一個所で 2 棟が重複しており，新しい SB13-A は東西 3.35 m，南北 3.2 m以上を測ります。三方に壁溝が見られますが，主柱穴は確認できません。切られている SB13-B は東西 3.45 m，南北 3.8 m以上の長方形で壁溝，主柱穴とも認められません。壺口縁等が出土しました。弥生時代中期後葉とみられます。

SX01　北半が破壊されていますが，幅 0.7 mの長楕円形の土坑で，主軸は真北からやや西に振れています。南東隅の掘方壁は他と比べて傾斜が緩く，この壁に添うように須恵器の無高台坏と高台付坏が出土しました。奈良時代の土壙墓と考えられます。

SX02　幅 0.7 m，長さ 2.1 mの隅丸長方形の土坑です。主軸はこれもまた真北からやや西に振れています。中心からやや北よりから須恵器坏蓋・坏身が両壁に添って出土しました。この土坑の周囲には幅 0.3 mの溝が断続的に巡っていて，須恵器高坏が出土しました。土坑に伴う周溝と考えられ，東西約 3.4 mの円形を測ります。円形または隅丸方形の小規模な盛土を伴っていた，古墳終末期 (飛鳥時代) の土壙墓とみられます。

SX09　長さ 2.2 mで幅は 0.8 mの長楕円形の土坑です。主軸はかなり振れ北西 - 南東方向を向いています。南東隅で須恵器の坏蓋・坏身が口縁を上に向けて組み合わされた状態で出土しました。古墳時代後期の土壙墓と考えられます。

SX03　方形に巡る周溝ですが，東コーナーが切れています。小方墳の周溝とみられます。内法で北西 - 南東が 8 m以上，北東 - 南西が 6.4 mを測ります。

SX05　南西半分が削られて失われています，方形に巡る周溝で，北西 - 南東方向が 6.6 mを測ります。

SX06　方形に巡る周溝です。南辺東寄りと北辺西寄りが途切れています。北西 - 南東が 6.1 m，北東 - 南西が 5.8 mのほぼ正方形です。

SX07　方形に巡る周溝で，北西 - 南東辺は 8 m，北東 - 南西辺は 6 mを測ります。周溝は幅 1.4 ～ 0.6 mで，全周しています。

SX08　SX07 と周溝の一部を共有しています。南半は撹乱により失われていますが，3 ～ 4 mの小規模なものとみられます。

まとめ

沖ノ坂遺跡では，弥生時代中期中葉から古墳時代にかけての住居が計 21 棟見つかりました。住居群の展開として，中期中葉に先駆けとなる大形の円形住居が建てられ，中期後葉になるとほぼ正方形の住居が谷からやや奥まった範囲に比較的間隔を保って建てられます。中期後葉から後期前半が最も集落が盛んとなりますが，その時期には住居が徐々に長方形となり，東に突き出した丘陵の先端部に密集し，同一個所での建て替えも盛んになっていくといった傾向が見て取れます。対岸の中尾山遺跡では，中期後葉頃に集落が衰退し方形周溝墓が盛んに築造され墓域へと変化していきます。沖ノ坂遺跡の集落の展開はその流れと密接に連動しているように思えます。

谷からさらに奥まった一帯には，5 基の方形周溝が検出されました。コーナー部に陸橋状の切れ目があることや , 周溝埋土からは弥生時代後期の土器片のみが出土したことから、調査当初は弥生時代の方形周溝墓とも考えていました，しかし中尾山遺跡で同様に見つかった方形周溝の分析や，高岡町寺山遺跡 (寺田山古墳群) で検出された小方墳のあり方から，後期の小方墳と考えることが適切と考えています。失われた沖ノ坂古墳群の 16 基のうちいずれかの可能性が高いのですが，特定は困難なため新たに沖ノ坂 20 ～ 24 号墳と命名しました。

さらに，古墳時代から奈良時代にかけての各期の土壙墓が確認できました，古墳の築造が停止した後も先祖の眠る墓域という認識があったものとみられます。

SB01

SB02

SB03

SB04

SB05

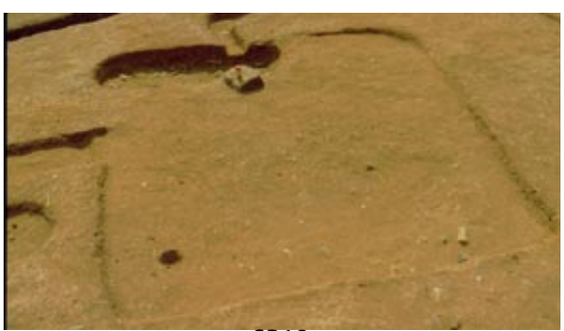
SB06・SB07

SB08

SB09

SB10

SB11


SB12

SB13

SX01

SX09

SX02

SX02・SX03・SX05～SX08

調査区全景 (北から)

調査区全景 (西から)

SB01 出土

SB02 出土

SB02 出土

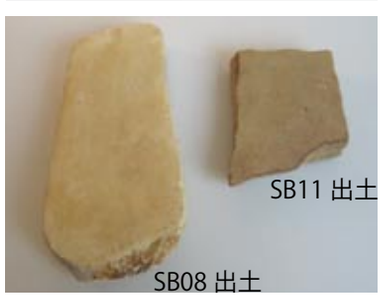
SB02 出土

SB07 出土

SB07 出土

SB08 出土

SB08 出土


SB11 出土
SB08 出土

SB12 出土

SB13 出土

SX01 出土

SX02 出土

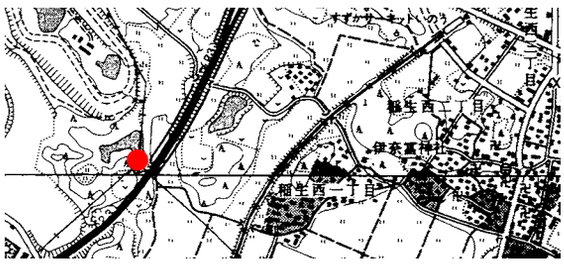
SX02 出土

SX09 出土

SX09 出土

南谷遺跡　Minamidani Site

所 在 地　鈴鹿市稲生町字南谷
事業主体　中部電力株式会社
調査目的　鉄塔建設に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間　平成 3 年 4 月 8 日～ 4 月 30 日
調査面積　262 ㎡
調査主体　鈴鹿市遺跡調査会
調査担当　新田　剛



南谷遺跡調査位置図 (1/25,000)

南谷遺跡は鈴鹿南西部丘陵地の南東端に位置します。丘陵を複雑に谷が浸食した幅 10 ～ 20 mほどの樹枝状に連なった標高 35 m前後の尾根上を利用して営まれています。東側には中ノ川の流域の平野が広がり，丘陵裾の水田面からの比高はおよそ 30 mあります。

調査は，高圧送電線の鉄塔建設に伴うものです。事前の試掘調査では尾根のほぼ全域で遺構が確認されました。そのため，鉄塔を建設する標高 36 mの尾根頂部を A 地点とし，A 地点から 63 m離れた進入路の造成に際してやむを得ず削平される標高 34 ～ 32 mの北東側斜面部分を B 地点として調査を行うことにしました。

調査の結果，A 地点からは竪穴住居 1 棟が検出されました。竪穴住居は，一辺 6.5 mの隅丸方形の住居から一辺 5 mの方形の住居に建て替えられています。遺物としては弥生時代後期の壺･高坏の破片が出土しました。B 地点からは方形に巡るとみられる溝 2 条と緩やかに弧状に巡る溝 1 条が検出されました。前者からは弥生時代後期の高坏・壺・台付甕が出土し，方形周溝墓とみられます。

弥生時代には高地性集落と呼ばれる，水田耕作には不向きな丘陵上などに堀や土塁を巡らせた防衛的な集落が営まれることがあります。当時は水利や領域の統合をめぐって地域間の緊張が高く，時として戦闘が勃発することもあったようです。この南谷遺跡もそのような緊迫した社会情勢を反映した高地性集落の一つと考えられます。

【参考文献】新田剛 1992『南谷遺跡 - 中部電力株式会社鉄塔建設事業に伴う発掘調査 -』鈴鹿市教育委員会･鈴鹿市遺跡調査会

南谷遺跡 A 区全景 (西から)

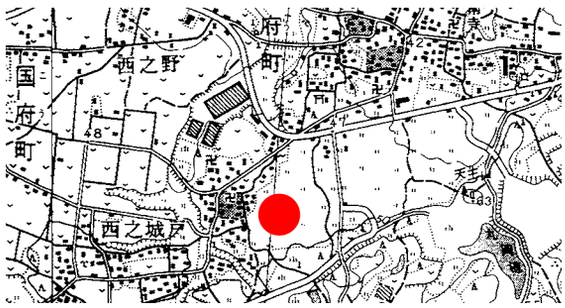
竪穴住居

B 区全景 (南から)

方形周溝墓出土弥生土器高坏

西ノ城戸遺跡　Nishinokido Site

所 在 地　鈴鹿市国府町字西木曽田・高畔
事業主体　株式会社ニシキ開発
調査目的　モータープールの造成に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間　平成３年４月 15 日～４月 17 日
調査面積　1,264 ㎡
調査主体　鈴鹿市教育委員会
調査担当　浅尾　悟



西ノ城戸遺跡調査位置図 (1/25,000)

はじめに

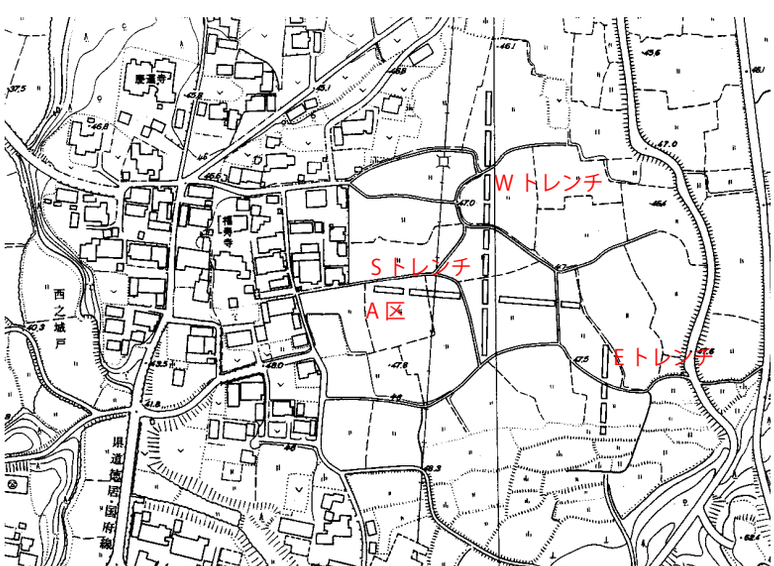
調査の対象となった国府町字高畔・西木曽田一帯は鈴鹿南西部丘陵地の緩やかな北向きの斜面上に位置します。標高は 46 m前後です。昭和 31 年に伊勢国府跡の調査を行った京都大学の藤岡謙二郎氏は歴史地理学的な観点から，国府町字長ノ城 (国府城跡) を政庁とする方八町 (872 m四方) の国府域を想定しました。今回の開発予定地はその想定国府域の南西部に含まれています。また，事前に実施した分布調査によっても広い範囲で遺物の散布が確認されました。そのため，開発に先立ち全域にトレンチを設定し遺構の有無を確認することになりました。

調査の結果

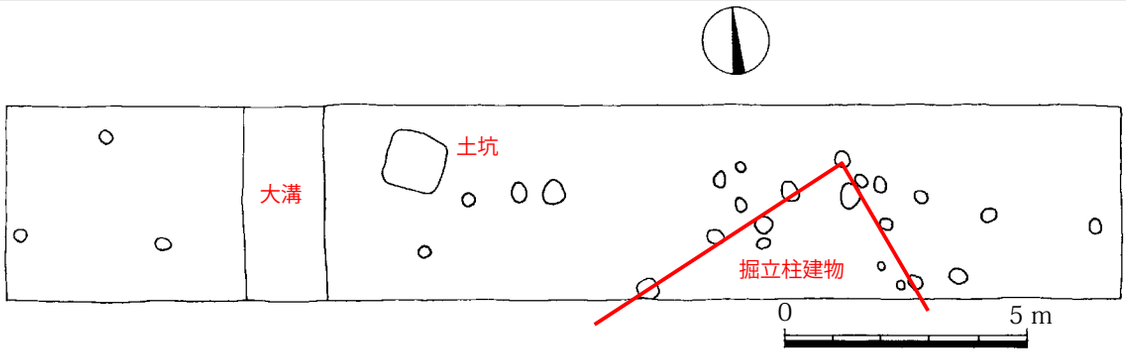
設定したトレンチは，幅 4 mで総延長は 316 mにおよびます。調査の結果，全 16 区のトレンチのうち 14 区からは遺構・遺物とも確認されませんでした。唯一，西ノ城戸集落に近いＳトレンチＡ・Ｂ区から遺構・遺物が検出されました。特にＡ区からはまとまって遺構が検出されました。検出遺構は南北方向の幅 1.7 m，深さ 0.55 mの溝 1 条，方形の土坑 1 基，掘立柱建物に伴うとみられる柱穴群です。溝からは鎌倉時代の山茶碗・土師器鍋などがまとまって出土しました。

まとめ

予想に反し大部分の調査区から遺構が検出されなかったのは，この部分が浅い谷状の地形であるためと見られます。遺構は標高が 47 mとやや高まりとなる開発対象地の西端で検出されました。おそらく中世の集落が現在の西ノ城戸集落付近に営まれ，Ａ区は集落の東端にあたるものと思われます。この結果をもとにに，事業者と協議を行いＡ区付近を開発区域から除外し保存しました。



西ノ城戸遺跡発掘調査区配置図 (1/5,000)



西ノ城戸遺跡 S トレンチ A 区遺構配置図 (1/200)

S トレンチ A 区 (西から)

S トレンチ A 区大溝 (南から)

S トレンチ A 区 (東から)

E トレンチ (北から)

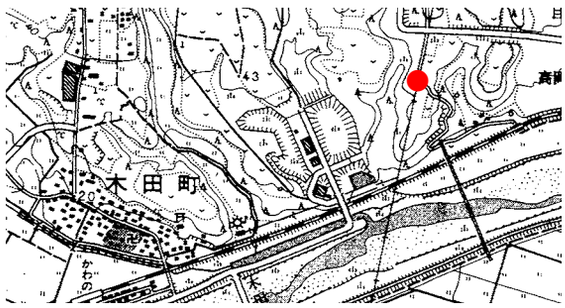
大溝出土平瓦

大溝出土山茶碗･山皿

大溝出土片口鉢

寺山遺跡　Terayama Site

所 在 地　鈴鹿市高岡町字寺山
事業主体　鈴鹿市水道局
調査目的　水管橋管理用道路建設に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間　平成３年４月 25 日～５月 30 日
　　８月１日～８月７日
調査面積　436 ㎡
調査主体　鈴鹿市遺跡調査会
調査担当　藤原秀樹



寺山遺跡調査位置図 (1/25,000)

はじめに

寺山遺跡は，鈴鹿川左岸の舌状地上に位置します。この台地上には市内で最大の前方後円墳寺田山１号墳をはじめとする寺田山古墳群が分布するほか，旧石器時代から中世までのさまざまな遺物が採集されている複合遺跡です。水管橋管理用道路建設にかかる調査は前年度から実施し，高岡配水池から南に向かいＡ～Ｅ区とし，Ａ区では弥生時代中期の竪穴住居群を，Ｂ・Ｃ区では墳丘を失った古墳５基を，Ｄ・Ｅ区では飛鳥～奈良時代の竪穴住居･掘立柱建物多数を検出しています。今年度は残る南端のＧ・Ｆ区について調査を実施することになりました。

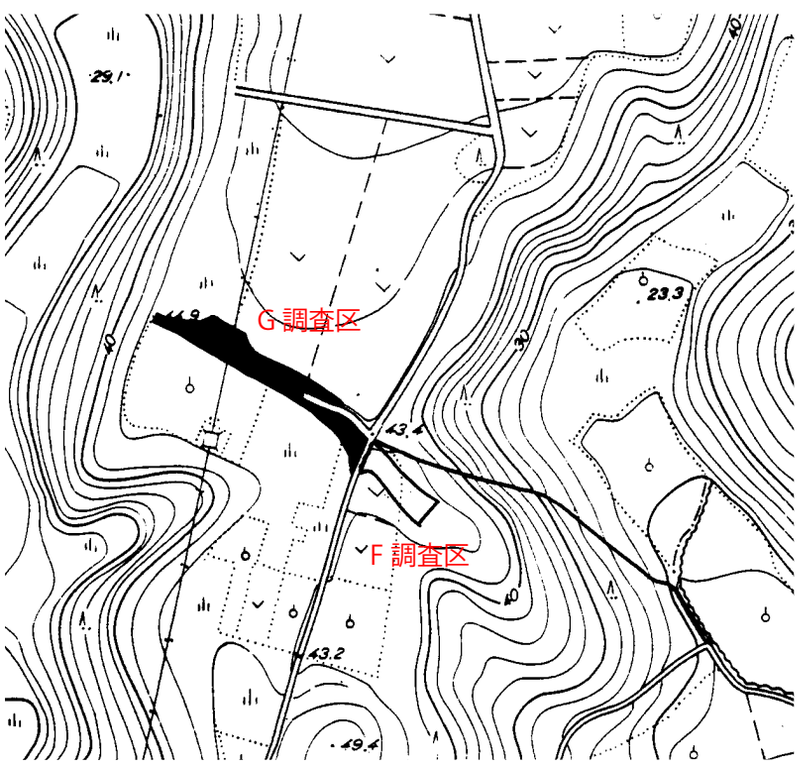
調査の成果

Ｇ区は台地を横断する幅約７ｍ，延長約 75 ｍの東西方向のトレンチ状を呈します。結果として掘立柱建物２棟，竪穴住居１棟のほか土坑・溝・ピット多数を検出しました。東向き斜面のＦ区は表土除去を行った結果，耕作等により撹乱が著しいことが判明し調査対象から除外しました。

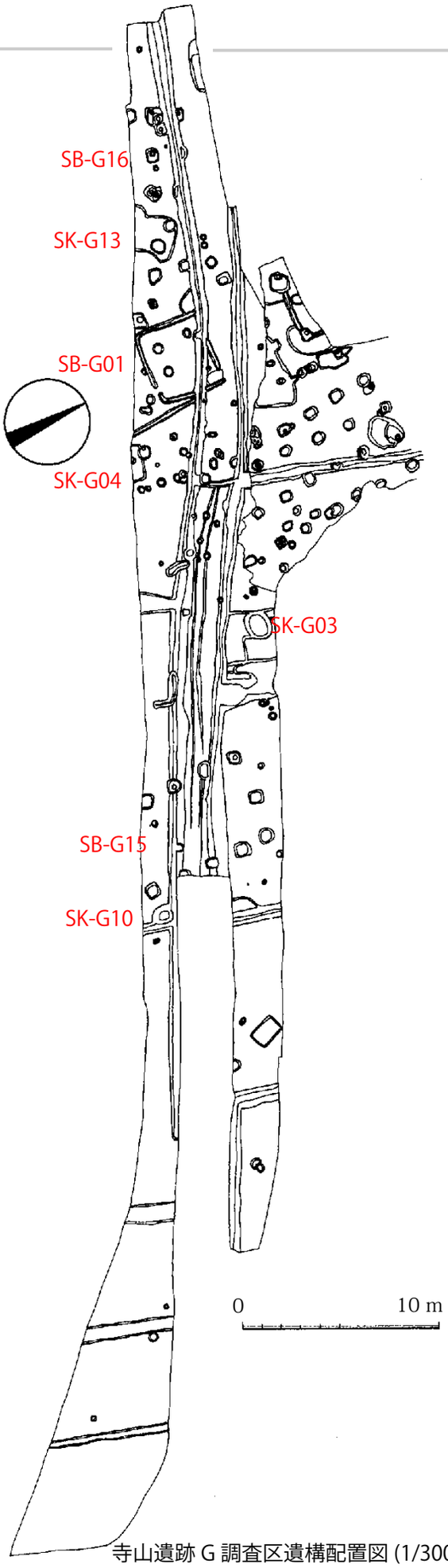
竪穴住居 SB-G01　南北 3.6 ｍ，東西 4.1 ｍのやや長方形の竪穴住居です。主軸はほぼ正方位です。四周に壁溝を巡らせ，主柱穴が確認できます。南東隅にカマドとみられる南北 0.8 ｍ，東西 0.6 ｍの焼土面が確認でき，土師器甕片がまとまって出土しました。７世紀代とみられます。

掘立柱建物 SB-G15　東西２間，南北５間以上の掘立柱建物です。方位はほぼ正方位です。柱掘方は 0.7 ～ 0.8 ｍの方形で，柱間はばらつきがあるものの東西７尺。南北 5.5 尺とみられます。

掘立柱建物 SB-G16　大部分が調査区外に出ていますが，東西２間，南北２間以上の総柱の掘立柱建物とみられます。あるいは２棟が重複している可能性もあります。方位は他と異なり N27°Ｅと東に振っています。柱掘方は 0.6 ～ 0.9 ｍの方形でやや不均一です。柱間は，東西が 6.5 または７尺，南北が 5.5 尺とみられます。



寺山遺跡調査区配置図 (1/2,500)



寺山遺跡 G 調査区遺構配置図 (1/300)

土坑 SK-G03　南北 1.3 m，東西 1.5 mの楕円形の土坑です。須恵器・土師器・平瓦が出土しています。8 世紀代とみられます。

土坑 SK-G04　東西 1.8 mの方形土坑です。須恵器・土師器が出土しました。7 世紀代のものとみられます。

土坑 SK-G10　径約 1.0 mの円形土坑です。常滑焼甕が出土しました。中世以降のものです。

土坑 SK-G13　南北 2 m，東西 3 m以上の不整形の土坑です。土師器・須恵器が出土しています。7 世紀代とみられます。

溝多数は近世以降の農道側溝，地境溝とみられます。

まとめ

昨年度実施した D・E 区と同様飛鳥から奈良時代にかけての竪穴住居・掘立柱建物が検出されました。SB-G15 は自然地形に従わず正方位に建てられていて，一般的な集落の住居とは異なったものである可能性があります。

寺山遺跡 G 調査区全景 (垂直)

寺山遺跡 G 調査区全景（西から)

SB-G01

SB-G15

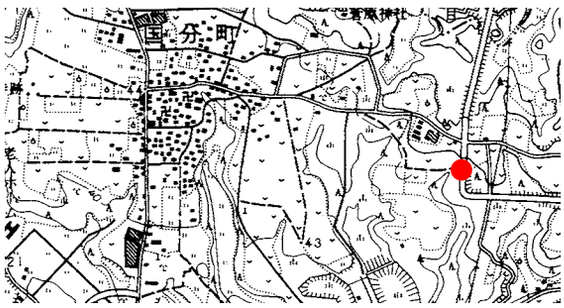
SB-G16

SB-G01 出土遺物

SK-G04 出土遺物

寺山遺跡　Terayama Site

所 在 地　鈴鹿市高岡町字寺山
事業主体　鈴鹿市道路整備課
調査目的　都市計画道路建設に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間　平成３年９月４日～９月 12 日
調査面積　177.5 ㎡
調査主体　鈴鹿市遺跡調査会
調査担当　藤原秀樹



寺山遺跡調査位置図 (1/25,000)

はじめに

都市計画道路高岡・采女線にかかる寺山遺跡の発掘調査は平成２年に実施しました。しかし，対象のうち用地買収の遅延から着手できなかった部分について，平成３年度に入り問題が解決し急遽工事着工ということになったため発掘調査を行うことになりました。

調査対象地は，台地の奥深くまで入り込んだ谷が二又に分かれた部分に挟まれた，狭い舌状台地に上です。今回の調査区を除く部分はすでに寺谷Ⅲ区として調査を実施し，北側では奈良時代の土器焼成土坑が，南側では弥生時代中期の竪穴住居と土坑，奈良時代の掘立柱建物と竪穴住居群が検出されています。

調査の成果

竪穴住居１棟，溝２条，土坑２基および建物としてまとまらないピットが検出されました。

竪穴住居 SB01　北東－南西方向 3.9 m，北西－南東方向 3.4 mの長方形の竪穴住居です。壁溝・主柱穴は検出されませんでした。北東壁中央にカマドが残っていました。カマドの袖は 0.4 mほど張り出し，燃焼部には口縁を下して置かれて支脚に転用された土師器甕が出土しました。また，カマドからわずかにずれて壁に大きな掘り込みがみられ，一度カマドを改修していることがうかがえます。

溝 SD02　延長 2.7 m，幅 0.5 mの溝です。弥生時代中期の土器が出土しました。

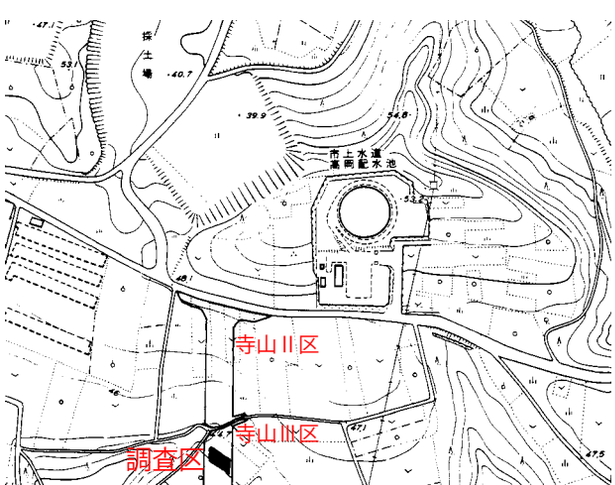
溝 SD04　幅 0.9m，近世以降の地境溝です。

土坑 SK03　南北 1.2 m，東西 0.8 mの不整形の土坑です。奈良時代の須恵器坏が出土しました。

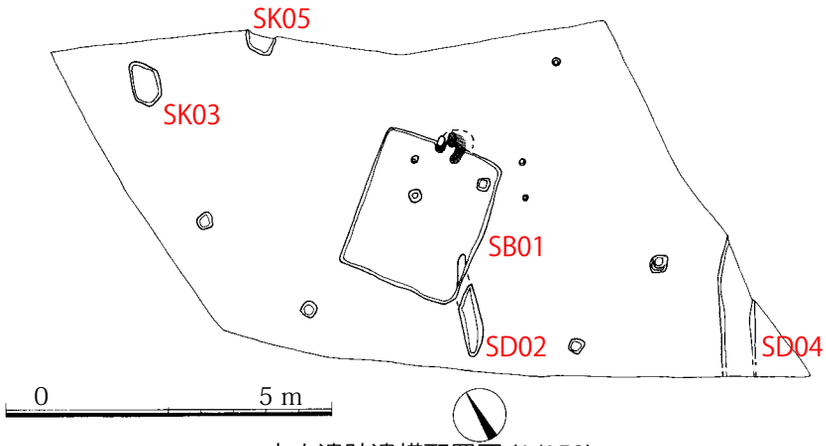
土坑 SK05　東西 0.8 mの円形の土坑です。

まとめ

竪穴住居は奈良時代のものとみられます。寺山Ⅲ区の他の竪穴住居とはやや距離を置き，最も奥まった位置に立地します。北側に近接する土器焼成土坑との関係が注目されます。



寺山遺跡調査区配置図 (1/2,500)



寺山遺跡遺構配置図 (1/150)

寺山遺跡調査区全景 (西から)　手前に SK03

SB01(南から)

SB01 カマド (南から)

SD02(南から)

SB01 カマド出土土師器

SD02 出土弥生土器

SK03 出土須恵器

伊勢国分寺跡 (4 次)　Ise Kokubun-ji Site

所 在 地　鈴鹿市国分町字南浦・木田坂上・西高木
事業主体　鈴鹿市
調査目的　史跡範囲確認 (学術調査)
調査期間　平成 3 年 10 月 2 日～ 12 月 25 日
調査面積　550 ㎡
調査主体　鈴鹿市教育委員会
調査担当　浅尾　悟

伊勢国分寺跡調査位置図 (1/25,000)

伊勢国分寺跡発掘調査の 4 年次目です。これまでの調査で，僧寺とされている史跡伊勢国分寺跡の寺域 (伽藍(がらん)地) がおよそ 180 m (600 尺) 四方のほぼ正方形であることを確認しました。昨年度から新たに国分尼寺推定地とされている国分集落の南方（通称「南院」）での調査が加わり，今年度は尼寺の確認を主な目的として調査を進めました。

国分尼寺推定地の南浦地区には 3 調査区を設けました。南浦 2 地区は，整地層を境に上下 2 層に分かれます。上層では溝 6 条，瓦溜 3 箇所が検出されました。これら上層遺構からは山茶碗が出土し鎌倉時代以降のものとみられます。整地層下からは, 幅 1m, 深さ 0.5 mの東西溝が見つかりました。東西溝はじめ整地層や瓦溜からは，これまで尼寺の瓦とされてきたもののほか，重弧文軒平瓦・単弁八葉蓮華文軒丸瓦・複弁八葉蓮華文軒丸瓦といった白鳳期に遡るとみられる瓦がまとまって出土しています。このことからこの国分の地には国分寺に先行する白鳳寺院が存在した可能性が高いと考えられます。

南浦 3 地区は，南浦 2 地区の南東に連続する調査区です。ほぼ全域に深さ 0.4 mほどの土坑が広がっていて，この埋土を除去した底面から掘立柱建物 2 棟の柱穴が見つかりました。土坑からは瓦類のほか，須恵器・土師器・灰釉陶器・円面硯・鉄釘等が出土しました。須恵器の坏を朱墨の硯として転用したものや,「智」と墨書された灰釉陶器皿が注目されます。

南方の南浦 4 地区では，性格不明の土坑や東西溝が多数見つかりました。うち，1 条の溝からは古墳時代須恵器がまとまって出土して，古墳の周溝である可能性があります。

さらに南側の木田坂上 3 地区では，掘立柱建物の倉庫 2 棟が重複して見つかりました。古いものは奈良時代のものとみられます。方位はかなり真北から西に振れています。他にも建物としてはまとまりませんがたくさんの柱穴が検出されています。建物の西側では幅 2.1 mで正方位のしっかりした溝が見つかりました。奈良時代の区画溝と見られます。

木田坂上 2 地区では中世の土坑 1 基が見つかりました。木田坂上 3 地区では遺構・遺物とも見つかりませんでした。

南浦 2 地区 (東から)

南浦 3 地区（北から）

伊勢国分寺跡については，南門前面の遺構確認を目的として西高木３調査区を設けましたが，性格不明のピットや土坑が検出されたのみでした。

【参考文献】 浅尾 悟 1992『伊勢国分寺跡－尼寺推定地の調査－』鈴鹿市教育委員会

南浦４地区 (北から)

木田坂上 3 地区（東から）

西高木 3 地区 (西から)

複弁八葉蓮華文軒丸瓦

単弁八葉蓮華文軒丸瓦

重弧文軒平瓦

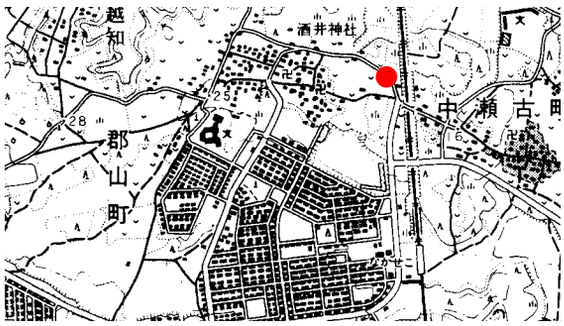
「智」墨書灰釉陶器皿

朱墨が付着する須恵器杯

仏画？ヘラ描き平瓦

塚腰遺跡　Tsukagoshi Site

所 在 地　鈴鹿市郡山町字塚腰
事業主体　鈴鹿市（土木課）
調査目的　道路改良に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間　平成３年 10 月９日～ 10 月 16 日
調査面積　30 ㎡
調査主体　鈴鹿市教育委員会
調査担当　新田　剛



塚腰遺跡調査位置図 (1/25,000)

はじめに

塚腰遺跡は中ノ川右岸の中位段丘上に位置しています。昭和 55 年度には道路建設に伴う発掘調査が行われ，弥生時代末から古墳時代初頭にかけての方形周溝墓２基のほか，弥生時代後期から中世にかけての遺構・遺物が確認されています。

今回の調査は，市道の側溝敷設に伴うものです。施工の幅が狭いため工事立会いを行っていたところ遺構が確認されたため，約 30 mの範囲で本調査を行うことにしました。

調査の結果

溝 SD1　道路に沿う北西－南東方向の溝です。北西側では幅約 0.4 m, 検出面からの深さ約 0.1 mで，南東方向に向かい広く，深くなっていき，最も深い部分では 0.4 mあります。山茶碗・土師器が出土しています。

溝 SD2　溝 SD1 と直交する北東－南西方向の溝です。幅 0.3 m，深さ 0.1 mで，SD01 に切られています。土師器が少量出土しています。

溝SD3　同じく溝SD1と直交する北東－南西方向の溝です。南東の肩を新しい溝に壊されているため，正確な幅は不明ですが 1.8 m以上あり，深さは 0.3 mです。これも SD01 に切られます。山茶碗・土師器・須恵器が出土しました。

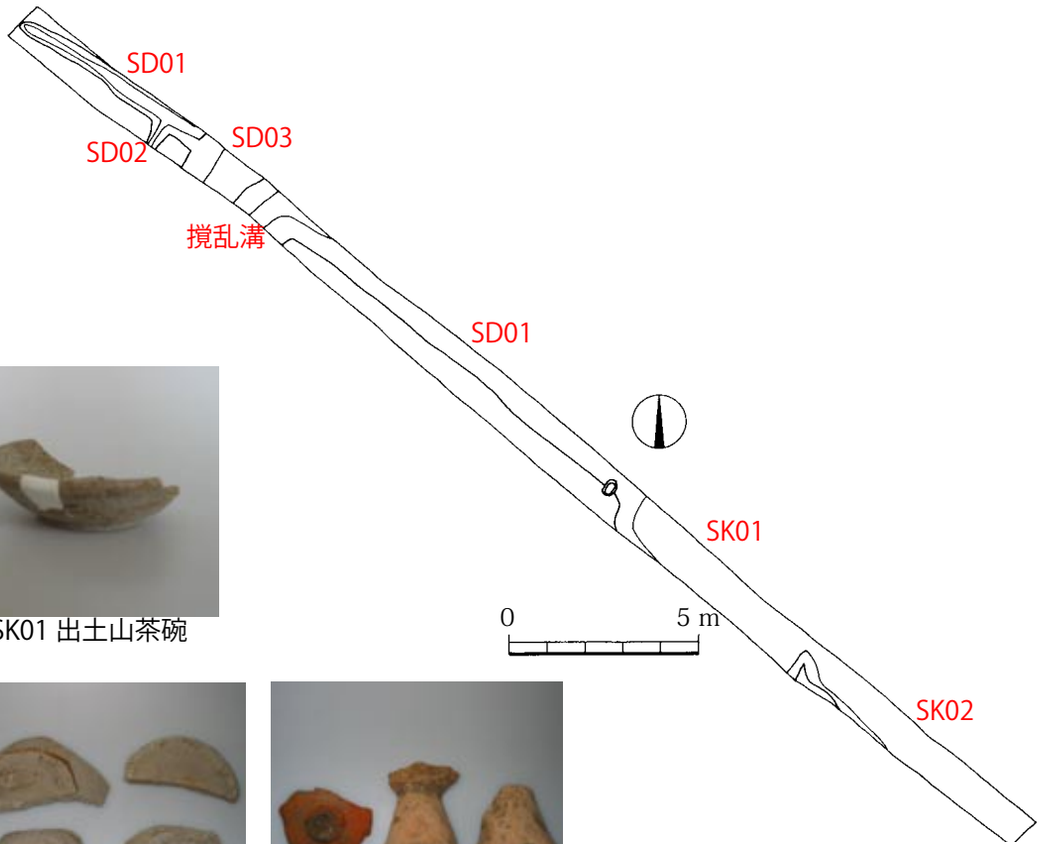
土坑 SK １　大部分が調査区外に及んでいますが，北西－南東の幅が６ mを測る方形土坑とみられます。深さは 0.35 mです。山茶碗・土師器・須恵器が出土しました。

土坑 SK ２　これも大部分が調査区外に及ぶほか，道路工事によって撹乱されています。北西－南東の幅が 7.5 mを超える大形の土坑で，深さは 0.35 mをはかります。山茶碗・土師器・須恵器が出土しました。

まとめ

SD2 を除く遺構はいずれも山茶碗を伴い，平安時代末頃～鎌倉時代初頭に位置づけられます。調査区が狭隘のため十分な情報は得られませんでしたが , 中世村落に関わる遺構の分布が濃密であることが分かりました。また，遺構は検出されなかったものの，中世遺構の埋土には古墳時代土師器・須恵器が少なからず混入しており，周囲に古墳時代の遺構が存在することが予想されます。

塚腰遺跡調査区配置図 (1/2,500)



塚腰遺跡遺構配置図 (1/200)

SK01 出土山茶碗

SD03 出土山茶碗

SD03 出土土師器

塚腰遺跡調査区全景 (西から)

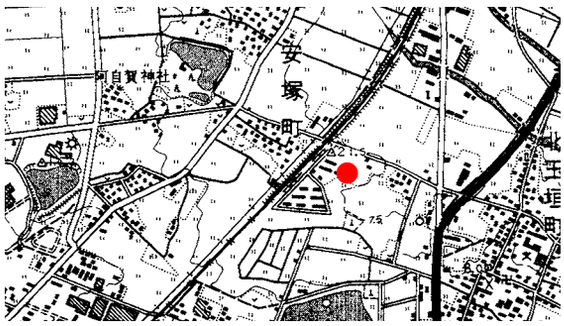
SD01・SD02・SD03(北から)

SD01・SK01(北から)

SK01・SK02(北から)

北ノ添遺跡　Kitanozoe Site

所 在 地　鈴鹿市北玉垣町字北ノ添 1751 ほか
事業主体　株式会社三商
調査目的　宅地造成に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間　平成 3 年 10 月 23 日～ 11 月 9 日
調査面積　450 ㎡
調査主体　鈴鹿市教育委員会
調査担当　藤原秀樹



北ノ添遺跡調査位置図 (1/25,000)

北ノ添遺跡は開発に先立つ分布調査によって新たに発見された遺跡です。鈴鹿川の右岸に広がる中低位段丘，いわゆる道伯台地上に立地します。周囲を水田化されたなかに島状に残る微高地で，標高はおよそ 8 mです。事前の試掘調査によって遺構が確認された，微高地の南縁約 450 ㎡を調査対象としました。

その結果，まず弥生時代中期後葉の竪穴住居 3 棟が検出されました。住居は長辺が 4.5 ～ 6 mの長方形で，床面には中央に炉と見られる周囲が焼けたピットと四本の主柱穴が確認できます。竪穴っ住居 1 の床面から弥生土器甕が，竪穴住居 2 から磨製石斧の破片が出土しています。

古墳時代後期の遺構として 2 基の古墳と 13 基の土坑があります。古墳はいずれも方墳で，墳丘はすでに削られ周囲の溝のみが残っています。1 号墳が一辺 10.4 m，2 号墳が 8 mときわめて小規模な古墳です。1 号墳の周溝から出土した須恵器・土師器から 6 世紀後半の築造と考えられます。古墳の周囲からは長さ 1.2 ～ 1.8 m，幅 0.5 ～ 0.8 mの長方形または長楕円形の土坑が 13 基検出されています。その大きさと形から同時期の土坑墓と考えています。

奈良時代の遺構としては一辺 2.2 mと小規模な方形の溝が検出され，須恵器の長頸壺が出土しました。

調査区の西端からは一列に並ぶ小さな柱穴が検出されました。調査区の関係で建物としてはまとまりませんでしたが総柱の掘立柱建物の一部と考えられます。周囲にはこの建物に関連すると見られる土坑や溝が検出されて，山茶碗が出土しています。平安時代末頃に営まれたものとみられます。

調査面積が狭いにもかかわらず，弥生時代から中世にかけての遺構・遺物がまとまって見つかりました。周囲に金沢川の小支流が入り込み，台地内部としては水利がよく生活に適していたようです。

【参考文献】藤原秀樹 1994『北ノ添遺跡』鈴鹿市教育委員会･鈴鹿市遺跡調査会

調査区全景 (東から)

竪穴住居 1

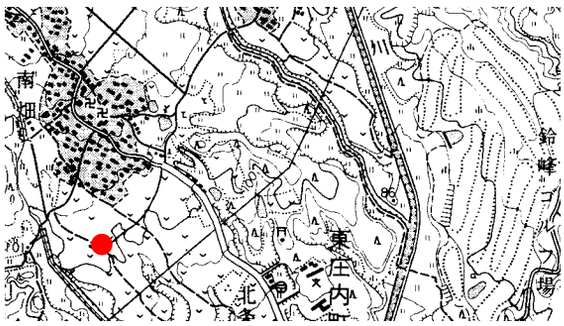
竪穴住居 2

竪穴住居出土弥生土器

古墳出土須恵器・土師器

南畑遺跡　Minamibata Site

所 在 地　鈴鹿市西庄内町南畑
事業主体　三重県土木部道路建設課
調査目的　県道改良に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間　平成 3 年 10 月 28 日～ 11 月 11 日
調査面積　1,100 ㎡
調査主体　鈴鹿市遺跡調査会
調査担当　新田　剛



南畑遺跡位置図 (1/25,000)

はじめに

南畑遺跡は県道水沢野田関線の改良工事に先立って実施された分布調査によって新たに確認された遺跡です。西庄内町南畑集落の南側に位置しています。鈴鹿山脈の麓に形成された扇状地上にあたり，標高はほぼ 100 mです。

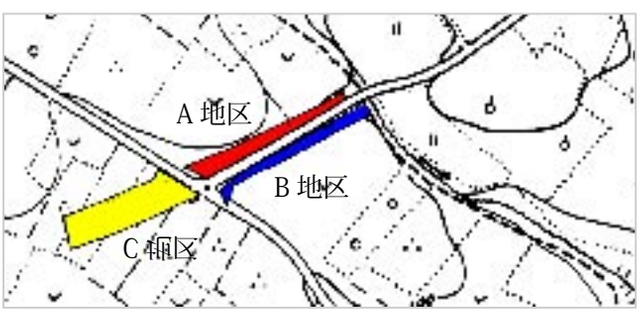
調査は事前に三重県埋蔵文化財センターが実施した試掘調査でピットや溝状の落ち込みが確認された約 1,100 ㎡を対象に A・B・C の 3 地区に分けて実施しました。

調査の結果

面的な調査の結果，試掘で確認された落ち込みはいずれも風倒木によるもので，人為的に掘られたとみられる遺構は検出されませんでした。遺物も A 区から土師器片 2 点・山茶碗片 1 点が，B 地区から土師器片 1 点が出土したのみでした。

まとめ

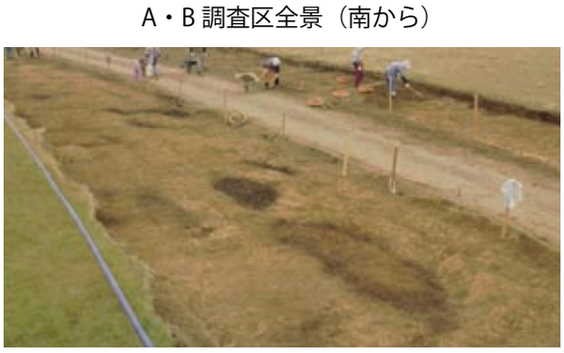
調査は予想外の結果に終わりました。おそらく，現在の南畑集落近くに古代から中世にかけての集落遺跡が存在しており，散布していた遺物はそこから運び込まれたもので，今回の調査区は遺跡の辺縁部にあたるものと見られます。



南畑遺跡調査区配置図 (1/5,000)

A・B 調査区全景（南から）

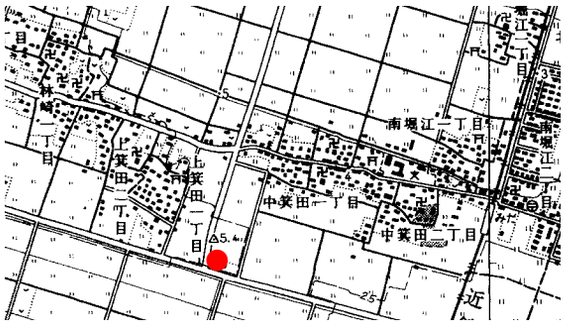
C 調査区全景（北から）


A 調査区風倒木痕

出土遺物

上箕田遺跡 (5 次)　Kamimida Site

所 在 地　鈴鹿市中箕田町字上月 1140-1
事業主体　鈴鹿市土地開発公社
調査目的　消防署建設予定地の造成に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間　平成 3 年 12 月 2 日～ 2 月 29 日
調査面積　3,000 ㎡
調査主体　鈴鹿市教育委員会
調査担当　新田　剛・藤原秀樹



上箕田遺跡調査位置図 (1/25,000)

上箕田遺跡は鈴鹿川右岸の低地（三角州性扇状地）中の標高 4 mほどの自然堤防上に位置しています。昭和 35 年に狩りの様子を描いた弥生土器の発見を契機として発掘調査が実施され，県下屈指の弥生時代集落遺跡として知られるようになりました。

第 5 次調査は現在の東消防署建設に先立つ用地造成に伴うものです。調査地は，上箕田集落の南東の水田中で , 遺跡の範囲の東端にあたります。

平安時代およびそれ以降の遺構として掘立柱建物 4 棟や土坑・溝が見つかりました。

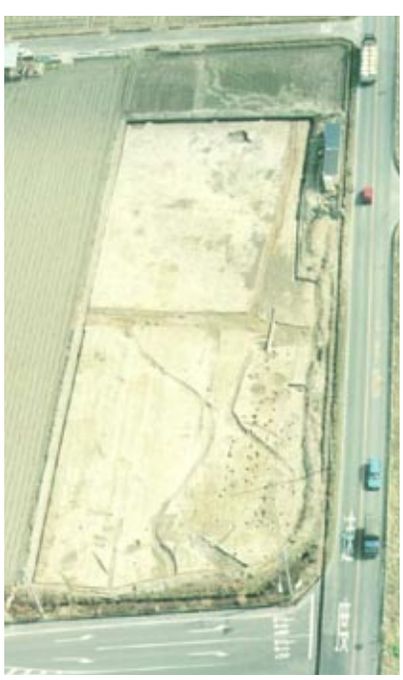
調査区の中央を南北に幅 3 mの溝が横断しています。この溝の方位は真北から 20°東に振れていて，傾きがほぼ一致することから条里地割に伴うものとみられます。この溝の東側からは同じく条里地割に関連するとみられる東西溝 1 条が見つかったのみで，耕作地として利用されていたようです。西側からは掘立柱建物 4 棟が見つかり，うち 3 棟は同一場所で建て替えられています。柱穴や同時期に存在したと見られる東西溝から出土した遺物から平安時代中ごろに営まれたようです。他に，鎌倉時代の土坑が見つかっています。

古墳時代の遺構は見つかっていません。しかし，包含層や平安時代の遺構に混入するかたちで須恵器のほか，めずらしい陶質土器などが出土しました。

弥生時代の遺構として調査区の西端から方形周溝墓 2 基が見つかりました。規模は一辺がおよそ 5 mで，外周溝は連続せず，四隅が切れて陸橋状をなすものです。1 基の溝から供献されたとみられる壺形土器が出土し，これから弥生時代中期前葉の築造と考えられます。

上層の調査が終了した後，下層遺構の有無を確かめるための断ち割り調査を行いました。その結果，調査区の南東隅で縄文時代晩期の包含層の存在が確認されました。包含層は緩やかな凹凸をなして堆積していて，自然流路や湿地のような環境だったようです。出土遺物としては深鉢・浅鉢・壺形土器などの土器や磨製石斧・叩石・磨石・凹石・砥石などの石器が出土しました。これらの遺物は少し上流にある集落で投棄されたものが流され再堆積したもののようです。また，エノキの根 2 株やオニグルミの種子などの自然遺物も見つかっています。このことから，縄文時代晩期の人々が海岸近くの低地部への進出を始めていたことがわかりました。この頃，畿内・瀬戸内等ではすでに稲作が始まっていたことがわかっています，そこで，土壌に含まれる花粉の分析を行いましたが、残念ながらイネの花粉は見つかりませんでした 。

【参考文献】新田剛 1993『上箕田遺跡』鈴鹿市教育委員会･鈴鹿市遺跡調査会


上箕田遺跡調査区全景 (北から)

調査区西半部掘立柱建物・溝 (南から)

調査区東半部溝 (北から)

掘立柱建物

方形周溝墓

下層縄文晩期包含層

方形周溝墓出土弥生土器

縄文晩期土器

磨製石斧・凹石・磨石・砥石

報告書抄録

ふりがな	はっくつされたすずか１９９１
書名	発掘された鈴鹿１９９１
副書名	発掘調査概報・概要集
巻次	
シリーズ名	発掘された鈴鹿
シリーズ番号	
編著者名	藤原秀樹
編集機関	鈴鹿市考古博物館
所在地	三重県鈴鹿市国分町２２４
発行年月日	平成 15 年 6 月 5 日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
沖ノ坂遺跡	鈴鹿市国分町字石亀谷	24207	15	34°54′8″	136°34′29″	910107～910326	1,700	一般廃棄物最終処分場
西ノ城戸遺跡	鈴鹿市国府町字西木曽田・高畔	24107	1088	34°51′3″	136°30′16″	910415～910417	1,264	モータープール
寺山遺跡	鈴鹿市国分町字寺山	24107	14	34°54′15″	136°34′48″	910425～910807	436	水管橋管理用道路
寺山遺跡	鈴鹿市国分町字寺山	24107	14	34°54′24″	136°34′46″	910904～900912	177.5	都市計画道路
塚腰遺跡	鈴鹿市郡山町字塚腰	24107	531	34°49′3″	136°32′31″	911009～911016	30	道路改良
南畑遺跡	鈴鹿市西庄内町字南畑	24107	1093	34°55′21″	136°27′16″	911028～911111	1,100	道路改良

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
沖ノ坂遺跡	集落・古墳群	弥生・古墳・奈良	竪穴住居・古墳・土壙墓	弥生土器・磨製石斧・砥石・須恵器	
西ノ城戸遺跡	集落	鎌倉	溝・土坑・掘立柱建物	山茶碗・瓦	
寺山遺跡	集 落	古 墳・ 奈 良	竪穴住居・掘立柱建物・土坑・溝	須恵器	
寺山遺跡	集 落	弥 生・ 奈 良	竪穴住居・土坑	弥生土器・土師器	
塚腰遺跡	集落	古墳・鎌倉	溝・土坑	山茶碗・土師器	
南畑遺跡	集落	奈良・鎌倉	風倒木痕	山茶碗・土師器	

編集環境

Windows98・XP Home Edition
Adobe InDesign2.02j　　Adobe Photoshop LE

使用フォント

小塚ゴチック std　小塚明朝 std

発掘された鈴鹿 1991 発掘調査概報・概要集

発　　行　平成 15(2003) 年 6 月 5 日
編集発行　鈴鹿市考古博物館
〒 513-0013　三重県鈴鹿市国分町 224
TEL0593-74-1994　FAX0593-74-0986
E-mail:kokohakubutsukan@city.suzuka.mie.jp
URL　http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/